

平成 30 年度理学部卒業予定者アンケート

理学部では、平成 31 年 1 月から 2 月末にわたり平成 30 年度理学部卒業予定者を対象に大学生生活全般に関するアンケートを実施した。今回の対象者は、平成 19 年度学部改組後 9 回目の卒業生に当たり、255 名中 182 名から回答があった。回収率は 71.4%であった。

「Ⅰ. 分析と今後の教育へのフィードバック」は平成 31 年（令和元年）度理学部の各コース長が担当した。また、「Ⅱ. 集計結果」は理学部大学点検評価委員会が受け持った。

I. 分析と今後の教育へのフィードバック

【数学コース】

数学コース卒業予定者 46 名全員から回答が得られた。アンケートの項目に沿って分析を行い、今後の教育へのフィードバックを述べる。

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」に対する回答(複数選択も可)で、最も多い回答は「友人との出会い」、「課外活動」が同数で、80%であった。「友人との出会い」は、過去 5 年間のアンケートで毎回一番満足度が高い項目となっている。課外活動は、昨年度に比べて大きく順位を上げている。無記名アンケートであるため、具体的な内容は不明であるが、近年大会で活躍している部活動に数学コースの学生も参加していることが見られ、この面での満足度が高くなることに影響しているのかも知れない。

3 位は「研究室での卒研ゼミ」であり、54%が選択されている。この項目は、例年 2 位の位置を占めているものの、回答率の年ごとの変動が大きい傾向が見られる。54%の満足度は前年度より低いものの、前々年度よりは高い水準にある。回答方法が、個別の項目に対する満足度を問うものでなく、選択肢を選ぶ方法であるため、他の項目の満足度が上がると、回答としては、別の項目の満足度が下がる可能性がある得るため、課外活動に対する満足度が上昇した今回のアンケートにおいては、この項目は健闘しているとも解釈で生きる。授業への満足度は 50%であり、前年度の 48%と同水準にある。

「高知大学での勉学や生活で満足できなかったもの」は、「親からの自立」が 30%となっており、自宅外通学が多い現状からすると意外な結果であった。前年度、最も多く選ばれていた「課外活動」を選択していたのは 4%であり、例年多数が選んでいたのから大きく減少した。満足度が高い項目として「課外活動」が多く選ばれていることと併せ、「課外活動」についての満足度がこの学年については高い傾向がある。次いで多く選ばれていたのが「研究室での卒研やゼミ」で 24%が選ばれていた。この項目は、満足しているという回答も 54%であり、不満足、満足共に選択する率が高い。これは、「研究室での卒研やゼミ」が大学生生活に占める比重が高いことを反映しているものとも考えられる。

教育研究施設（学習環境）については、満足・ほぼ満足を合わせると 90% であった。過去 5 年間も 90% 前後であり、学習環境は満足度が高い。就職支援活動については、満足・ほ

ほぼ満足に合わせて 80% である。前年度の 87%より低下したが、統計的な揺らぎの範囲と考えられる。

ボランティア活動には 36% の学生が参加している。前年度は 36%であったので、変化は余りない。満足度に対する回答については、満足・ほぼ満足しているという回答が活動に参加している回答数と同数であった。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は、20～29 とした学生が最も多く 37% であり、この選択肢が最多選択であったのは前年度と同様であった。それについて 30～39 以上とした学生は 22% であった。満足した理由は「親切で丁寧であった」を選んだ学生が 65%と最多で、次いで「専門分野の実力がついた」が 59%であった。満足できなかった授業の数は、9 以下とした学生が最も多く 54% であり、ついで 10～19 とした学生が 20% である。

満足できなかった理由の最多は、「不親切でわかり難い授業だった」が 54%であり、ついで実力がつかなかった」で 37% で、3 番目「一方的な押し付け授業だった」で 24% である。昨年と比べ 1, 2 位の順番が入れ替わっているものの不満を持たれる主たる理由がこの 2 つである傾向は、余り変わっていないと考えられる。

【標準履修モデル】

「基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されてい了吗か」の質問には 98% の学生が「配置されていた」または「概ね配置されていた」と回答している。また、「専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されてい了吗か」の質問には 96% の学生が「配置されていた」または「概ね配置されていた」と回答している。さらに「教育目標と標準履修モデルが合致しているか」の質問には 98% の学生が「合致していた」または「概ね合致していた」と回答している。これらの項目は、昨年度、一昨年度とほぼ一致している。標準履修モデルは、卒業生の評価という観点からは妥当と思える。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対して、「全くそのとおりである」または「概ねそのとおりである」という回答を合わせると 67% である。これは、前年度より増加している。一方で、「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げて欲しい」という要望に対して「全くそのとおりである」または「概ねそのとおりである」という回答を合わせると 39% で、これは前年度と同水準である。過半数の学生がさらに高度な知識を求めている一方で、理解に苦労している学生を 4 割近くいるため、授業のレベルについては、他大学の動向等、他の要因も考慮しての検討が望まれる。

「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望については、「全くそのとおりである」または「概ねそのとおりである」という回答を合わせると 30%であり、「あまりそう思わない」、「全く思わない」の合計の 70%に及ばなかった。これは、他コースと大きく状況が異なっており、数学コースとしての特性だと考えられる。

「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対して、「全くそのとおりである」または「概ねそのとおりである」という回答を合わせると 43% である。残りの 57%は、否定的な「あまりそう思わない」、「全く思わない」という回答を選んでおり、回答がほぼ二分されている。具体的な記述をする質問では、「コミュニケーション能力」等が挙げられており、ゼミナール等の方法を考慮することも考えられる。

【成績評価】

成績評価は「適切であった」または「概ね適切であった」の回答の割合が 80% であった。これは、ほぼ前年度と同水準である。

【授業改革】

理学部の各学科が開設している授業科目数と内容が適切かとの質問には「適切である」または「概ね適切である」の回答を合わせると 93% であった。概ね満足されている様子であった。具体的な記述を要請する質問に対しては、「他コースの概論が多いと感じた。」という記述があった。これは、理工学部になると、該当する科目が減少することが予定されている。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援は適切かとの質問には昨年度及び一昨年度と同様に一人を除き「適切である」または「概ね適切である」と回答している。ほぼ問題なく機能していると考えられる。

【総合評価】

「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったですか。」という質問に対しては、「とてもよかったですと思う」、「おおむねよかったですと思う」の何れかを選んだ卒業生は 90% であり、まずまずの評価であった。個別の記述では、1 年生では双方向の授業が多かったのが、高学年では一方的なものがほとんどであるというコメントがあった。低学年で、講義する内容だけでなく、学ぶ姿勢を植え付ける必要があるようである。

【物理科学コース】

平成 30 年度のアンケートは、卒業予定者 26 名中 4 名からアンケートが回収された。回収率は 15.4%と低かったため、分析結果の精度はよくないが、例年の傾向と矛盾していない。

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」に関する回答（複数回答）は、「友人との出会い」、「課外活動」がそれぞれ 4 名でもっとも多く、ついで「研究室での卒研やゼミ」、「先生との出会い」が 3 名でそれに続いている。一方「満足できなかったもの」としては「課

外活動」が2名でもっとも多く、「授業」が1名、「先生との関係」も1名いた。これは昨年度までとほぼ同様の傾向といえるが、卒業研究に密接に関係する「研究室での卒研やゼミ」、「先生との出会い」が多く評価されている一方、1名ではあるが不満のある学生もおり、そういう学生への対処も考えていく必要がある。また「課外活動」についても満足している学生と、不満のある学生に完全に分かれており、さらなる分析にはどのようなところが不満であったかの詳細が必要になる。

【教育研究施設に関する感想】

教育研究施設（学習環境）に関しての満足度は、1名が「満足できた」、3名が「ほぼ満足できた」と回答しており、「満足できなかった」という学生はいないため、満足度は非常に高かったことがわかる。これも昨年度までとほぼ同様の傾向であり、これまでの教育研究施設（学習環境）を整えてきた結果といえる。

【就職支援活動の感想】

就職支援活動に関しては、3名が「満足できた」、1名が「ほぼ満足できた」と回答しており、アンケートに回答した学生には「満足できなかった」という学生はいなかった。これも昨年度までとほぼ同様の傾向であり、この傾向を続けていきたい。

【ボランティア活動】

ボランティア活動への参加は「ある」と答えたものはアンケート回答者4名の中にはいなかった。例年参加者の比率は低いが、参加した学生の満足度は高いので、参加を促していきたい。

【受講科目の感想】

「満足できた授業」の数に関する回答は、「10-19」が2名でもっとも多く、「30-39」と「20-29」がそれぞれ1名ずつであった。また、満足した理由に関しては「親切で丁寧な授業であった」と「教材を工夫していた」がそれぞれ2名、「専門分野の実力がついた」と「教員の熱意が感じられた」が1名ずつであった。サンプル数は少ないが例年と同じ項目が挙げられていた。これに対して「満足できなかった授業」の数は、「9以下」が2名、「10-19」が1名であったが、「40以上」が1名いた。満足できなかった理由として「実力がつかなかった」が3名、「不親切でわかり難い授業だった」、「一方的な押し付け授業だった」がそれぞれ1名であった。おおむね満足していることが見て取れるが、授業に関する不満の声もあり、学生の理解度を高める、さらに工夫した授業を行う必要がある。

【標準履修モデル】

基礎科目の配置に関してはサンプル数は少ないが全員が「おおむね配置されていた」と回答している。専門科目の配置に関しては1名が適切に「配置されていた」、3名が「おおむね配置されていた」と回答しており、適切ではないと回答した学生はいない。教育目標と

標準履修モデルとの合致度については、1名が「合致していた」、3名が「概ね合致していた」と回答している。すべて肯定的な回答であり、標準履修モデルは適切であると思われる。

【専門科目への要望】

専門科目への要望については、「より高度な授業内容を実施してほしい」は「全くそのとおりである」が1名、「あまりそう思わない」が3名であった。「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」は「全くそのとおりである」が1名、「概ねそのとおりである」が3名であった。3名については専門科目の授業内容、レベルを少しやさしくしてほしいとして矛盾ないが、「より高度な授業内容を実施してほしい」と答えた1名の「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」に対する「思わない」の回答はなく「全くそのとおりである」と回答しており、矛盾がある。回答を勘違いしている可能性がある。サンプル数が少ないため、専門科目の授業内容、レベルについて少しやさしくする結果になったが、現状どおりでも例年の傾向と矛盾しないと思われる。

【実験実習や野外調査について】

「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対して、「全くそのとおりである」が1名、「概ねそのとおりである」が2名、「あまりそう思わない」が1名であった。サンプル数は少ないが、例年の傾向と矛盾せず、実験実習の時間はほぼ適切であると考えられる。

【「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望】

「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対して、「全くそのとおりである」が1名、「概ねそのとおりである」が2名、「あまりそう思わない」が1名であった。そう思う学生の具体的な内容に関する個別回答は、Microsoft Office のスキルアップのような実用的ではあるが大学の授業でどこまで教えるかという検討が必要なものもあるが、社会人からの体験談、社会人としてのマナーなど外部の専門講師の授業は、経費の制限はあるが、期待に応えていきたい。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切であったか」に関して、「適切であった」が1名、「概ね適切であった」が1名と肯定的な回答であったが、2名は「適切でない授業もあった」と回答しており、すべて肯定的になるようにさらに努力を続けていかねばならない。

【授業改革】

「授業科目数と内容」に関して「適切である」が1名「概ね適切である」が3名と肯定的な回答であった。

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援」に関して「適切であった」が3名「概ね適切であった」が1名と肯定的な回答であった。

【高知大学での学び】

「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったですか」として、「とてもよかったです」という回答が3名、「おおむねよかったです」という回答が1名と肯定的な回答であった。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

今回のアンケートの回収率は15.4%と少なく、分析結果の信頼性は十分ではない。回収率を上げる必要があり、ほぼ全員から回収できるような工夫をしたい。しかしながら、傾向としては例年と矛盾せず、「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったですか」や「アドバイザー教員の指導・支援」、「授業科目数と内容」、「標準履修モデル」、「教育研究施設（学習環境）」、「就職支援活動」について肯定的な回答をしており、満足していることがうかがえる。「受講科目」に関して多くの科目で満足しており、「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」については、「研究室での卒研やゼミ」、「友人との出会い」、「先生との出会い」が上位にきており、多くの学生が卒論を含む勉学に満足していることが見て取れる。

しかし、その一方で「授業」について「一方的な押し付け授業だった」や「実力がつかなかった」、「教員の熱意が感じられなかった」等の授業に不満のある学生もおり、「適切な成績評価」も含めさらなる授業の改善を続けていく必要がある。

【化学コース】

平成26-30年度の5年間のアンケート結果を比較・検討した。各年度の回答率は、H26：19/15（127%）、H27：5/14（35%）、H28：18/17（106%）、H29：16/17（94%）、H30：15/15（100%）であった。

以下で各年度のパーセントを（26年度、27年度、28年度、29年度、30年度）で表すことにする。なお、H27年度は回答者が5名と少なく、一人当たり20%と回答率が高くなる点に注意し、参考として欲しい。

【全般的な質問】

“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の1位と2位は、「研究室での卒研やゼミ」（37%、40%、50%、44%、80%）、「友人との出会い」（74%、100%、83%、94%、47%）であり、今年度は研究室での研究活動の評価が大幅に上昇した。また、昨年度は多かった「授業」（16%、0%、17%、50%、0%）は大幅に減少し、例年レベルとなった。一方、“高知大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち、「授業」は58%、40%、56%、31%、73%となっており、今回は大幅に増加した。研究室での卒研やゼミでの満足度に反して授業へ

の満足度が低いことは、これまでとは大きく異なっているが、後の問に対するコメントにもあるように、一部に教員の対応の冷たさ、指導力への不満などがあることが関係していると思われる。また、「友人との関係」で満足できなかった（5%, 20%, 6%, 6%, 13%）学生の増加が見られる。人間関係をうまく構築できない学生が少なからずいるので、今後アドバイザー教員制度等を通じた、孤立した学生の掌握と解消が望まれる。

“教育研究施設（学習環境）”については、満足とほぼ満足を合わせると64%, 80%, 45%, 75%, 47%であった。入学年度による評価の変動が大きい、減少傾向にあり、H28年度に続いて50%以下になっている点は気がかりである。“高知大学の就職支援活動”については、「満足できた」と「満足できなかった」の回答が、37%/16%, 40%/0%, 22%/17%, 31%/0%, 13%/7%であった。しかしながら、「あまり満足できなかった」の回答は47%と多く、就職室や就職委員の活動だけでなく、就職状況が良いことから支援の必要性が少ないことも関係していると考えられる。“ボランティア活動への参加”について、「ある」（32%, 0%, 22%, 50%, 20%）は、昨年に比べては減少しているが例年並みと言える。実験などに費やされる時間が多いため、ボランティア活動に時間を割く余裕がないなどやむを得ないものと考えられる。

【受講科目の感想】

“満足できた授業”の数は40以上（5%, 0%, 17%, 19%, 7%）、30-39（11%, 0%, 17%, 25%, 27%）、20-29（32%, 60%, 33%, 19%, 7%）、10-19（33%, 21%, 20%, 22%, 19%, 40%）、9以下（32%, 20%, 11%, 19%, 20%）となっている。年度によってばらつきがあるが、本年度は19以下の区分が60%とH26年度に次いで高くなった。“満足した理由”については、「親切で丁寧な授業であった」（42%, 60%, 25%, 25%, 73%）、「専門分野の実力がついた」（58%, 42%, 40%, 43%, 39%, 40%）となっており、「親切で丁寧な授業であった」が大きく増加した。“満足できなかった授業”の数は、40以上（11%, 40%, 17%, 6%, 7%）、30-39（13%, 5%, 0%, 6%, 27%）、20-29（32%, 20%, 22%, 19%, 13%）、10-19（21%, 0%, 11%, 31%, 40%）、9以下（32%, 40%, 39%, 38%, 13%）と例年より多くなっている。“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」（58%, 80%, 67%, 35%, 53%）、「一方的な押し付け授業だった」（58%, 40%, 28%, 21%, 67%）など、一方的な押し付け授業に不満を感じた学生が非常に多くなった。

【標準履修モデル】

“基礎科目および専門科目の内容や難易度”について、これまで肯定的な回答が、80%を超えていたが、今回は基礎科目で53%と大きく減少した。“教育目標と履修モデルについて合致していたか”についても、肯定的な回答（90%, 100%, 94%, 83%, 71%）が例年より

も減っている。単年度の結果からだけで理由を探るのは難しいが、授業への満足度の低下と併せて、注視する必要がある。

【専門科目への要望】

“より高度な授業内容を実施してほしい”という要望に対して、積極的に望む回答をした学生は 16%, 40%, 22%, 6%, 67%であった。また“難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい”という要望に対して、否定的な学生は 69%, 0%, 56%, 26%, 60%であり、例年は全体的に現状の授業レベルを下げしてほしいと望む学生が多かったが、今年度は高度な授業を望んでいる学生とレベルを下げたい学生ともに多く、学力と学習意欲の二極化が顕著に表れているように思われる。“実験実習の時間を増やしてほしい”と希望する学生は 53%, 20%, 72%, 76%, 67%と高い要望がこの3年続いた。一方で、“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”と希望する学生は、57%, 40%, 33%, 57%, 27%と過去5年間では最も低くなったが、外部と接触する授業を要望する記述も見られた。

【成績評価】

“成績評価”については、肯定的な回答が(63%, 80%, 83%, 62%, 60%)と昨年度と同様に低くなった。また、適切でない授業もあるとの指摘もあることから、各授業で成績評価の明確な基準を学生に伝えることも重要と考えられる。

【授業改革】

“授業科目数と内容の適切さ”については、肯定的な回答(84%, 100%, 84%, 94%, 86%)が大勢を占めている。しかしながら、否定的な回答をした2名の学生から、授業の内容や方法に関する指摘が挙がっている。少数意見ではあるが、今後の動向を注視していく必要がある。

【アドバイザー教員制度】

“アドバイザー教員制度”については、肯定的な回答が(89%, 60%, 89%, 100%, 87%)であり、多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じている。

【自由意見】

SciFinder や ChemDraw のライセンス契約の解除に関する不満が挙げられている。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

学部改組に伴い、新しい先生方を迎え、また老朽化した実験室の改修工事が進むなど、教

育環境の改善がなされていると考えてきたが、今回の回答では、授業および教育研究施設（学習環境）に対する満足度が大きく低下している。研究室での卒研やゼミでの満足度に反して授業への満足度が低いことは、これまでとは大きく異なっており、一部に教員の対応の冷たさ、指導力への不満などのコメントがあることから、今後の動向に注意が必要と考えられる。

また、満足したことに「友人との関係」を挙げた学生の大幅な減少に加えて、満足できなかったと回答した学生の増加が見られる。人間関係をうまく構築できない学生が少なからずいるので、今後もアドバイザー教員制度等を通じた孤立した学生の掌握と解消が望まれる。

例年、全体的に現状の授業レベルを下げたいと望む学生が多かったが、今年度は高度な授業を望んでいる学生とレベルを下げたい学生ともに多く、学力と学習意欲の二極化への対応が急務であると考えられる。

【生物科学コース】

生物科学コースの卒業予定者 47名のうち9名からしか回答が得られなかった。したがって、標本数としては不足であり、アンケート結果が全体の傾向を表現しているかは不明である。さらに過去のアンケート結果との比較も困難である。以上を留意条件とし、今後の教育へのフィードバックを述べる。

2. 満足できた項目は全項目に渡っており、勉学と生活においてほぼ充実した日々をすごしたことが伺える。授業を選択した学生は3名で、教員サイドとしてはこの数字の向上に向け、努力が求められる。

3. 高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを下記より選んでください

上記との関連で、授業に満足できなかったと3名の学生が回答している。先生との関係、友人との関係を選択した学生はゼロであり、これも1の結果と整合的である。

4. 教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。

満足できた、ほぼ満足できたで100%を占め、教育研究施設の面では一定の水準にはすでに達していると判断される。

5. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか

ほぼ満足できた、あまり満足できなかったが多数を占めた。これは他コースでも同様な傾向であり、コースよりも学部ないしは大学の取組の改善が必要となるのではないかと。

6. 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか

9名中2名が参加していた。ボランティア活動は強要するものではないので、学生の意識の変化を見守るしかないと思われる。

7.6で「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか
2名が満足と回答しているが、回答数が不足で実態は不明である。

8. あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）の印象をお聞きます。満足できた授業の数はおよそいくつでしたか。

Cの20～29の回答がもっとも多かった。満足不満足には学生側の事情（例えば予習の有無）もあり、概ね6割程度の数字ができれば、よしとすべきであろう。

9. 満足した理由を下記より選んでください。

親切で丁寧な授業であったがもっとも多数を占めた。生物科学の教員はおおむね教育熱心であり、いい加減な授業を行っていないことが示唆される結果と考える。

10. 理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）のうち、満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。

DとEが多数を占め、おおむねの講義が学生に好評であると考えられる。

11. 満足しなかった理由を下記より選んでください

様々な項目に分散して回答が得られている。一方的な押し付け授業であったが最多（5）であった。学生参加型の授業を増やす必要があるかもしれない。

12. 基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたが

「いなかった」と回答した学生はゼロであった。おおむね学生のニーズに合致した配置となっていると考えられる。

13. 専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたが

「いなかった」と回答した学生は1名のみであった。おおむね学生のニーズに合致した配置となっていると考えられる。

14. 各教育コースは独自の教育目標を掲げています（履修案内等を参照してください）。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。

2名があまり合致していなかったと回答している。どの点が合致していないかが不明であり、この回答のみでは対応は困難である。

15. 「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます

あまり思わないが最多であった。まったくそのとおりであると答えた学生がゼロなことには、一抹の寂しさを感じるが、学生の要求水準と合致した授業を提供している現状を示しているのだろう。

16. 難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします

思うと思わないが拮抗している。現在の授業の水準が適正なことの証左か。

17. 「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

全員が思うと回答した。本コースでは相当数の実習と野外調査を提供しているが、意見を受け、増加の方向で検討する必要があるだろう。

18. 「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします

6名が思うと回答している（19参照）。

19. 18でAあるいはBを選択した人にお聞きします。社会に出て役立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください

コミュニケーション能力やマナーなどが挙げられている。これは学生生活の全般を通じて養われる能力であり、授業としては馴染まないであろう。

20. これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか
適切ではないと回答した学生は1名のみであり、おおむね適正に評価が行われていると考えられる。

21. 理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思われませんか
足りないと回答した学生は1名のみであり、おおむね適正な科目数と内容であると考えられる。

22. 21でCあるいはDを選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思いますか。具体的に書いてください

集中講義との回答があった。増加させたいが、現状では予算との関係で困難である。

23. アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか

2名があまり適切ではなかったと回答しているが、5名は適切であったと回答している。教員個人の資質もあり、全員に適切との評価を得るのは困難と予想される。

24. 総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったと思いますか。

1名を除き、よかったと回答している。大多数の学生は高知大学で充実した学生生活を送れたと考えていると想像される。

25. 理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください
意見はなかった。

【地球科学コース】

地球科学コースでは、12名の卒業予定者に対し、12件のアンケートが回収された。回収率は100%である。

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」という問いに関する回答（複数回答）は、「友人との出会い」が8名で最も多く、つづいて「研究室での卒研やゼミ」が7名であり、過半数の卒業予定者がこれらに満足した様子が見える。また、「先生との出会い」も5名の卒業予定者が選択している。一方、「満足できなかったもの」としては「授業」をあげたものが5名あった。後の回答の一部にもあるように、「授業と関係ない話が多かった」と言う意見や「先生によって授業に対する熱意が違いすぎる」といった意見も寄せられている。こうした意見への留意も必要であろう。

【教育研究施設】

教育研究施設（学習環境）に関しては、12名中11名が「満足できた」あるいは「ほぼ満足できた」と回答しており、大きな問題はない。

【就職支援活動】

就職支援活動に関しては、回答のあった12名中9名が「満足できた」あるいは「ほぼ満足できた」と回答しており、大きな問題はない。

【ボランティア活動】

大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加した卒業予定者は、12名中3名であり、その全てが行った活動に対してほぼ満足していた。

【受講科目の感想】

「満足できた授業」の数に関する回答の分布は幅が広いが、5つある選択肢の中央付近に分布が集中しているようである。また、満足した理由（複数回答）に関しては、専門分野の実力がついた」が12名中9名で最も多く、「親切で丁寧な授業であった」が7名、「教員の熱意が感じられた」が3名とつづいている。これに対して「満足できなかった授業」の数

は、最も少ない選択肢である「9以下」が5名と最も多く、好ましい結果といえる。満足できなかった理由（複数回答）としては、「不親切でわかり難い授業だった」が4名、「一方的な押し付け授業だった」が4名であった一方、「教材の工夫が見られなかった」ならびに「内容が古すぎた」を選択したものがいなかったことは特筆できる。全体を俯瞰すると、「満足した」、あるいは「満足しなかった」理由を複数回答で問う質問に対する回答数を見ると、「満足した」が23、「満足しなかった」が15であることから、全体としては満足した卒業予定者が多いと判断してよいだろう。

【標準履修モデル】

基礎科目ならびに専門科目の配置に関しては、12名中11名が適切に「配置されていた」あるいは「おおむね配置されていた」と回答しており、また教育目標と履修モデルの整合性に関しても11名が「合致」あるいは「概ね合致」していたと回答しており問題は無い。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施して欲しい」という要望に対して、「全く」あるいは「概ねそのとおりである」との回答が12名中9名、逆に、「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」との質問に対して、「全く」あるいは「概ねそのとおりである」が3名であった。また「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」か、と言う問いに関しては7名が「全く」あるいは「概ねそのとおり」と回答している。「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」か、と言う問いに関しては実に半数の6名が「あまり」あるいは「全く思わない」と回答している。以上を総合すると、直ちに社会の役に立たずとも人類の「知の集積と継承」を目的のひとつとする高度な理学に関する素養が十分に養われたものといえるかもしれない。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切であったか」との問いには、12名中4名が「適切ではない授業もあった」と回答したものの、8名が「適切」または「概ね適切」と回答していることから総体的に大きな問題は無いが、なおいっそう適切な評価に留意する必要はあろう。

【授業改革】

「授業科目数と内容」に関しては12名中11名が「適切」または「概ね適切」と回答しており、適切な設定であったことが伺える。

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援」に関しては、12名全員の学生が「適切」あるいは「概ね適切」と答えており、問題は無い。

【高知大学での学び】

「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったですか」との間に対して、1名が「あまりよかったですか」としたものの、他の11名は「とても良かった」あるいは「おおむね良かった」と回答しており、概ね良い結果と言えよう。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

以上をまとめると、地球科学コースでは総じて学生満足度の高い教育を行ってきた様子がうかがえる。同コースとしての教育体制は、学部改組の結果、今年度末をもってひとつの区切りをむかえるが、総合的満足度に関する回答にもあるように「先生によって授業に対する熱意が違いすぎる」という意見は真摯に受け止め、それぞれの教員がいつもの授業改善につとめることは重要であろう。

【情報科学コース】

平成30年度25名の卒業生数で回答は25名、回答率は100%である。

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」については、「研究室での卒研やゼミ」が22名「先生との出会い」が18名、「友人との出会い」が16名と多く、「授業」、「課外活動」、「親からの自立」が10名くらいとなっていた。

「高知大学での勉学や生活で満足できなかったもの」については、「課外活動」が7名、「授業」が5名、「友人との関係」が2名であった。また、「研究室での卒研やゼミ」、「先生との関係」、「親からの自立」が1名であった。その他が6名であり、そのうち4名が「特になし」であった。概ね、研究室での卒研やゼミに満足しており、研究室における教員と学生との関係が大変良好であることがわかる。

「教育研究施設（学習環境）」については、「ほぼ満足できた」が14名と多く、「満足できた」は7名であった。「あまり満足できなかった」は3名、「満足できなかった」が1名であった。この結果より、情報科学コースの教育研究施設（学習環境）は、ほとんどの学生にとっては満足できるものであったことがわかる。しかし、昨年と比べ、満足できていない学生が増えている。

「高知大学の就職支援活動は満足できるものか」については、「ほぼ満足できた」が10名と多く、「満足できた」についても8名おり、25名中18名の学生が概ね満足していることがわかる。一方、「あまり満足できなかった」は4名、「満足できなかった」は0名であった。満足していない学生が0名になるように、今後も、より一層、学生への就職支援情報の周知に努める必要があると考える。

「在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか」については、「ある」と答えた学生が5名であった。そのうち、5名が「満足」「ほぼ満足」であった。一方、「ない」と答えた学生は20名となっており、ボランティア活動への参加意識は低い。

【受講科目の感想】

「受講科目で満足した科目数」は、「40以上」が3名、「30～39」が6名、「20～29」が12名、「10～19」が2名、「9」以下は2名であった。学生が満足することができた授業科目が多いことが分かる。「満足した理由」については、「専門分野の実力がついた」が19名、「親切で丁寧な授業があった」が16名、「教員の熱意が感じられた」が9名、「授業内容が斬新だった」が8名であった。多くの科目において適切な教育がなされていることがわかる。「満足できなかった授業の数」は、「9以下」が14名と多く、ほとんどどの科目は学生の満足できる科目であったことがわかる。「満足しなかった理由」については、「不親切でわかり難い授業だった」が8名、「実力がつかなかった」、「教材の工夫が見られなかった」、「一方的な押し付け授業だった」がおおよそ5名程度おり、「内容が古すぎた」、「内容が体系的でなく断片的だった」がそれぞれ3名であった。「その他」として、「自分の熱意が足りていなかった」とあった。

【標準履修モデル】

「基礎科目は、授業内容・難易度において適切に配置されていたか」については、「概ね配置されていた」が14名、「配置されていた」が8名であった。適切に配置されていたことがわかる。次に、「専門科目は、授業内容・難易度において適切に配置されていたか」については、「概ね配置されていた」が16名、「配置されていた」が9名であった。専門科目においても基礎科目と同じく、適切に配置されていたことがわかる。「各教育コースが掲げている教育目標は標準履修モデルと合致しているか」については、「合致していた」が5名、「概ね合致していた」が20名であった。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」については、「概ねそのとおり」が11名、「あまりそう思わない」が8名であった。このことより、現状の授業レベルからの急激な高度化は望まれていないことがわかる。

「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」についても「あまりそう思わない」が15名、「全くそう思わない」が3名となっており、授業レベルが概ね適切であることがわかる。

「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」については、「あまりそう思わない」が10名、「全くそう思わない」が5名と半数を占めており、現状でほぼ適切であることがわかる。

「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」については、「あまりそう思わない」が10名、「概ねそのとおりである」が9名、「全くそのとおりである」6名、「全く思わない」

は0名となっている。

「社会に出て役立つこととはどのようなことを考えていますか」については、「社会にでた際のマナー」、「授業での内容がどのように活かしているか」、「コミュニケーション能力」、「IoT」、「閑話的な感じ講義の合間で、軽く話を挟んでくれたりする先生好きでした。」「「勉強」的な話を少し身近にしてくれるだとか。(具体例で想像できたり)」、「実際に働いた時に必要な技術、知識」、「レポート作成能力(文章力、構成力)」、「マナーについてなど」、「実践的なシステム等の運用方法など」、「大学で学ぶ内容と働いて生きていく為に必要なスキルを上手く組み合わせたい」、「ホームページ作成、公開・サーバ作成・機械学習」、「実際に社会にでて働いている人の話を聞きたい。仕事しているときの考え方や実際の給料の話などなど」、「実社会で使われているプログラムや言語、そのリストの解説などがあると良い」、「働くことを想定としての授業」との回答があり、多岐にわたる。マナーやコミュニケーション能力に関する授業が望まれていることがわかる。また、高度情報化社会において、情報技術は日々急速に進展しており、その変化に合わせて、社会で役立つ内容を盛り込んだ適切な授業が望まれていることがわかる。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切であったか」については、「概ね適切であった」が14名、「適切であった」が9名となっており、概ね適切な評価がなされていたことがわかる。

【授業改革】

「各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思いますか」については、「概ね適切である」が15名、「適切である」が5名、「足りない」が5名であった。科目数は適切であることがわかる。「足りない」と回答した学生に対して「どんな授業を増やせばよいか」という問いに対して、「前期でとることのできる授業を増やした方がいい」、「副専攻科目を増やしてほしい」、「情報工学などハードウェア設計やIoTやAIなど最新技術に関わることなど」、「専門的な講義」、「回路実験などの実験を増やしてほしい」という回答があった。

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか」については、「適切であった」が21名、「概ね適切であった」が4名であった。アドバイザー教員の指導制度が機能していることがわかる。

「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったと思いますか」については、「とてもよかったと思う」が13名、「おおむねよかったと思う」が11名であった。情報科学コースにおいて、多くの学生が満足していることがわかる。

【理学部の教育や高知大学の教育全般に関する意見】

「3回生の4月からゼミ配属でもいいと思う」、「教員免許取得希望者への授業科目数の免除

や卒業単位への反映などがあればより免許取得希望者の負担が減るのではないかと思います」、「専門知識を身につけることができました。ありがとうございます」、「理学部専門で気軽に話しかけられるメンタルケアの先生が欲しいです」、「他コース、他学部とかかわる機会がもう少し多ければ楽しいと思う。(現在でも、初年次の授業(原文ママ)や、一部の教養の授業(原文ママ)ではそういう機会があったがもうちょっと欲しい)」、「卒業に必要な単位数の確認を一目で分かるようにして欲しい」、「情報棟のエアコンの効きが悪い」、「情報科学棟のエアコンが壊れたままの場所があったので、どうにかしてほしい」

【分析と今後の教育へフィードバック】

例年どおり、研究室での卒研やゼミに満足しており、研究室における教員と学生との関係も大変良好であることがわかった。教育研究施設(学習環境)についてもほとんどの学生にとっては満足できるものであった。しかし、昨年度よりも満足していない学生が増えている。就職支援については、概ね満足しているようである。今後も、全員が満足できるように、より一層、学生への就職支援情報の周知に努めることが必要であると考えられる。

授業については、基礎科目および専門科目の内容・難易度・配置については概ね適切であることが確認された。しかし、満足できた授業の数については、昨年は30~39と答えた学生が4割いたが、今年度は4割の学生が20~29と答えており、満足できた授業数が減っている。約7割の学生が「より高度な授業内容を実施してほしい」と要望しており、また、約6割の学生が「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」と要望していた。具体的には、マナーに関する授業、コミュニケーション能力、レポート作成能力(文章力、構成力)を育成する授業や実社会で役立つ情報スキルを身に着ける授業を希望していた。実社会で役立つ人材になることを学生が望んでいることがわかる。高度情報化社会において、情報技術は日々急速に進展している。学生は最新技術に関する授業を望んでおり、専門科目の充実を望んでいる。授業において、最新の話題や実社会に役立つ話題を多く取りあげるよう努力する必要がある。授業科目に関しては理工学部のカリキュラムで改善されていることもあり、今後の動向を見つつ、さらに充実するように努力する必要がある。

理学部の教育や高知大学の教育全般についての意見に、「情報棟のエアコンの効きが悪い」、「情報科学棟のエアコンが壊れたままの場所があったので、どうにかしてほしい」とあった。これが、教育研究施設(学習環境)について満足していない学生が増えた原因と考えられる。なお、昨年も満足できなかった理由に「大学の設備」があがっていた。

情報科学棟の老朽化は深刻であり、特に、空調設備は26年間使用しており、これまでも故障が頻発していた。メーカー純正の部品もなく、代替品により修理を行っていた。最近では代替品の入手も極めて困難な状況となり復旧までに1~2ヶ月を要していた。平成30年夏に、5階全室と4階のほとんどの部屋で空調が使用できない状況となった。また、3階の1部屋で室内機故障が生じた。空調が使用できないと室温は40度を超える。さらに、12月に、夏に故障した4階室外機が再度故障し、4階のほとんどの部屋で空調が使用できない状況となった。代替品も入手不可能で故障したまま放置された。故障した時期は、学部4年生と修士2年生にとっては、卒業論文および修士論文の作成を行なう最も重要な時期で

あった。しかし、十分な教育研究環境を提供できない状況が余儀無くされた。研究室が寒い
ため、学生から何度も改善して欲しいと懇願された。

今年度になり、ようやく 4 階半分の空調設備を更新していただいた。しかし、未だ更新
されていない空調設備がほとんどである。修理することは不可なため、今後、故障が生じ
れば、教育研究環境を学生へ提供することができなくなる。情報科学棟の空調設備の更新
については「高知大学キャンパスマスタープラン 2016」で取り上げられており、今後 6 年で
更新を計画するとある。早急なる空調設備の更新が望まれる。

【応用化学コース】

平成 26-30 年度の 5 年間のアンケート結果を比較・検討した。各年度の回答率は、H26：
18/26 (69%)，H27：24/30 (80%)，H28：22/27 (82%)，H29：33/35 (94%)，H30：28/26 (108%)
であった。

以下で各年度のパーセントを（26 年度，27 年度，28 年度，29 年度，30 年度）で表すこと
にする。

【全般的な質問】

“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の 1 位と 2 位は、5 年間を通じて「友人との出
会い」(72%，75%，86%，88%，77%)，「研究室での卒研やゼミ」(50%，42%，55%，58%，
69%) であり、研究室での研究活動の評価が過去 5 年間では最高の値であった。また、「授
業」は、17%，17%，27%，15%，23% でやや増加し、一昨年度レベルとなった。“高知
大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち、「授業」は 44%，38%，35%，22%，50%
と、こちらも増加している。満足している授業と満足できなかった授業があるのか個人で
意見が分かれているのかはわからないが、ここ数年で教員の入れ替わりも多くあったこと
から、今後を注視していく必要があると思われる。また、注意を要する傾向として、「友
人との関係」で 25%，「先生との関係」で 11% が満足できなかったと回答している。人間
関係の構築が得意でない学生が増加していると考えられることから、今後もアドバイザー
教員制度等を通じた孤立した学生の掌握と解消が必要と考えられる。

“教育研究施設(学習環境)”についての満足度は、満足とほぼ満足を合わせると 83%，79%，
77%，77%，89% と過去 5 年間では最高の値であり、学習環境は十分に整ってきたと考えら
れる。“高知大学の就職支援活動”については、「満足できた」と「満足できなかった」の
回答は、78%/23%，58%/17%，60%/14%，57%/3%，11%/46% となっており、「あまり満足
できなかった」が 36% である。就職室や就職委員の活動だけでなく、就職状況が良いことか
ら支援の必要性が少ないことも関係していると考えられる。“ボランティア活動への参
加”について、「ある」(28%，29%，18%，33%，29%) は、数値的にはそれほど高いとは
言えないが、実験などに費やされる時間が多いためボランティア活動に時間を割く余裕が

ないなどやむを得ないものと考えられる。ボランティア活動への参加者は 75%がその活動にほぼ満足している。

【受講科目の感想】

“満足できた授業”の数は 40 以上(0%, 13%, 14%, 9%, 4%), 30-39(22%, 21%, 32%, 15%, 25%), 20-29(33%, 25%, 23%, 42%, 29%), 10-19(28%, 29%, 14%, 30%, 32%), 9 以下(17%, 13%, 18%, 3%, 11%)となっている。年度によってばらつきがあるが、一般的に年度を経るごとに満足できた授業の数がわずかながら減少傾向である。“満足した理由”については、「専門分野の実力がついた」(56%, 42%, 28%, 31%, 57%),「親切で丁寧な授業であった」(39%, 46%, 31%, 31%, 50%),「教員の熱意が感じられた」(28%, 38%, 22%, 14%, 21%)となっており、いずれも増加している。“満足できなかった授業”の数は、40 以上(0%, 8%, 9%, 6%, 0%), 30-39(11%, 21%, 14%, 6%, 11%), 20-29(28%, 29%, 14%, 27%, 25%), 10-19(28%, 21%, 23%, 24%, 32%), 9 以下(33%, 17%, 41%, 36%, 32%)となっており、19 以下が 60%程度と概ね例年と同じ傾向である。“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」(61%, 46%, 33%, 30%, 64%),「一方的な押し付け授業だった」(28%, 33%, 21%, 12%, 43%),「実力がつかなかった」(16%, 25%, 12%, 21%, 32%)などと、いずれも 5 年間で最高の値となっており、“満足できた授業”の減少傾向も踏まえると、さらなる授業改善が必要と考えられる。

【標準履修モデル】

“基礎科目および専門科目の内容や難易度”について、肯定的な回答が、90%, 96%, 86%, 86%, 88%と毎年高い。“教育目標と履修モデルについて合致していたか”については、肯定的な回答(83%, 92%, 86%, 86%, 75%)が例年よりやや少なくなっているが、特に変更を行った点はないことから、単年度の結果からは理由を探ることはできない。

【専門科目への要望】

“より高度な授業内容を実施してほしい”という要望に対して、積極的に望む回答をした学生は 6%, 17%, 5%, 12%, 4%であった。肯定的な回答(概ねそのとおりである)が 61%である。また“難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい”という要望に対して、否定的な回答は 78%, 62%, 59%, 79%, 64%であり、全体的に現状の授業レベル以上を望む学生が多いと言える。“実験実習の時間を増やしてほしい”や“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”という要望に対して、それぞれ希望する学生は 66%, 66%, 50%, 64%, 64%や 44%, 54%, 50%, 54%, 54%と、例年と同じであり、コミュニケーションやプレゼン能力の向上, 対人スキル, Excel をはじめとする PC 活用能力など具体

的な要望に関する記述が複数あった。

【成績評価】

“成績評価”については、肯定的な回答が 72%, 71%, 59%, 78%, 82%となっており、理学部全体の 82%と同程度であった。また、“適切でない授業もあった”や“適切でない授業がたくさんあった”も 18%と学部全体と同程度であった。引き続き、明確な成績評価の基準を伝える努力を継続する必要がある。

【授業改革】

“授業科目数と内容の適切さ”については、肯定的な回答(86%, 87%, 78%, 87%, 96%)が高く維持されている。1名の学生から、物理、生物分野の充実を求める記述があった。

【アドバイザー教員制度】

“アドバイザー教員制度”については、肯定的な回答が 88%, 94%, 92%, 95%, 94%, 93%であり、多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じている。

【自由意見】

ChemDraw のライセンス契約の解除に関する不満が挙げられている。また、情報伝達の不備や授業内容の共有不足などの指摘があり、コース内の風通しを良くする必要があると考えられる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

授業については、「専門分野の実力がついた」、「親切で丁寧な授業であった」などの肯定的な回答が 50%を超えているが、“満足できた授業”の数が減少している。“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」、「一方的な押し付け授業だった」、「実力がつかなかった」が、いずれも過去 5 年間で最高の割合となっており、学部改組に伴い、新しい先生方を迎え、また老朽化した実験室の改修工事が進むなど、教育環境の改善がなされ、一定の効果が得られていると考えてきたが、さらなる改善の必要性が考えられる。

また、大学での人間関係に悩む学生が増加しており、満足できなかったこととして、「友人との関係」、「先生との関係」を挙げる回答が見られた。大学生活への適応に苦労し、孤立してしまう学生を早期に発見し、支援する体制の充実が望まれる。

その他、専門科目への要望、成績評価、授業改革、アドバイザー教員制度に関する回答は、例年と変わらなかった。

【海洋生命・分子工学コース】

[30年度の数字に続いて29年度の数字を括弧内に示した]

卒業予定者41名のうち31名から回答を得た。回答率は75.6 (100) %である。本年度はジェネラルコースを選択した学生比率が多く、また、アンケートを行った時期が例年より遅かったため、ジェネラルコースの学生からの回収が困難だったことが回収率の低下に繋がったと考えられる。

【全般的な質問】

大学で満足したこととしては「友人との出会い」が65%でトップ、次点は「研究室での卒研やゼミ」で61%であった。昨年度は「研究室での卒研やゼミ」が61%でトップ、次点は「先生との出会い」で48%、「友人との出会い」は僅か19%であった。本コースには出会いたくないような学生ばかり集まっているのかと心配したが、昨年度だけの一過性の現象であったようである。一方、満足できなかったこととしては「授業」が45%でトップであった。昨年度は「授業」が満足できなかったと回答した学生は5%であり、激増した理由は不明である。誰か何かやらかしたのだろうか。教育研究施設(学習環境)については「満足できた」と「ほぼ満足できた」が合計で84% (81%) と、昨年比でも高い数字となった。高知大学の設備の充実が学生たちに支持されている結果なのか、あるいは学生たちが無いものねだりしても無駄であると悟ったのかのどちらかであろう。就職支援に関しては昨年同様「満足できた」と「ほぼ満足できた」が合計で65% (71%) となっており、「あまり満足できなかった」と「満足できなかった」の合計35%を大きく上回っている。

【理学部に関する質問】

満足できた授業の数に関して、29年度は「30～39」が57%と最多であったのに対し、30年度は「20～29」が35%で最多であった。但し「40以上」と「30～39」も各々16%、10%居り、上出来と考える。満足した理由については「専門分野の実力がついた」と「親切で丁寧な授業であった」が各々48%、55%であった。満足できなかった授業の数については、「10～19」が52% (31%) が最も多く、次いで「9以下」が32% (48%) となっている。理由としては「不親切でわかり難い授業だった」が58% (38%) で最も多く、次いで「実力がつかなかった」が26% (33%) であった。コメントとしては一言「分からない」という記載があったが、何を言いたいのかが「分からない」。

【標準履修モデル】

基礎科目については「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が90% (100%) を占め、肯定的な回答結果であった。専門科目についても「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が84% (95%) であり、同様な傾向の回答であった。また、コースの教育目標と標準履修モデルが合致していたかとの問いには、84% (95%) が「合致していた」「概ね合致していた」と回答しており、十分な結果である。「より高度な授業をしてほしい」という要望に対する意見としては、「全く

そのとおりである」と「概ねそのとおりである」が 77% (86%) と昨年と同レベルであった。一方で「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」に関して「概ねそのとおり」が52%もあり、どうも回答内容に一貫性が見られない。「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」は「あまりそう思わない」が35%で最多であった。「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」に関しては「あまりそう思わない」と「概ねそのとおり」が同率で32%であった。役立つことの内容に関しては「コミュニケーション能力」が3件見られたが、理学部云々以前に、大学で学ぶ事項ではない。「経済とか」、「役所の手続きで必要な知識」という回答もあったが、来る学部を間違えたとしか言えない。

【成績評価・授業改革・アドバイザー制度】

成績評価の方法については、「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は84% (81%) であり、昨年とほぼ同率の高い数値であった。理学部が開設している授業科目数と内容に関しては、「適切である」「概ね適切である」と答えた学生は94% (90%) であり、これも高い数値であった。アドバイザー教員の指導・支援については「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は94% (81%) と依然高い値であり、この制度が十分に機能している結果と考えられる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

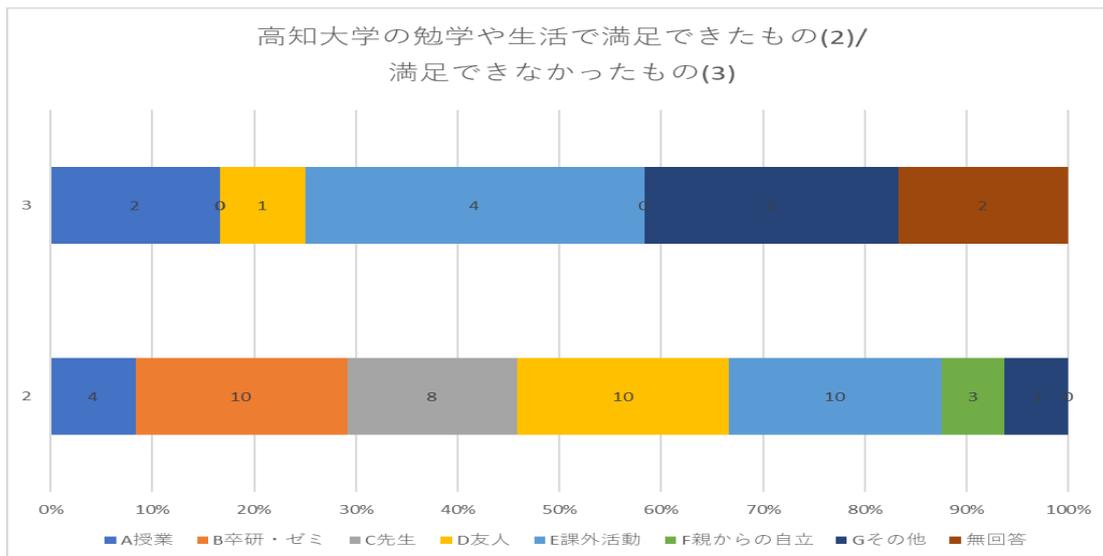
個々のケースにおいて多少の不満はあったかもしれないが「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったですか」という問いには97%が「とてもよかったと思う」或いは「おおむねよかったと思う」と回答しており、上出来であると考えられる。「自由記載欄」への記載に「学生が自身の大学に誇りを持つ教育に期待したい(原文ママ)」とあったが、「持てる」の送り仮名を間違えるようでは、誇りを持つのは難しいと思われる。そもそもこの記述自体、何を期待しているのかが良く分からない。

【災害科学コース】

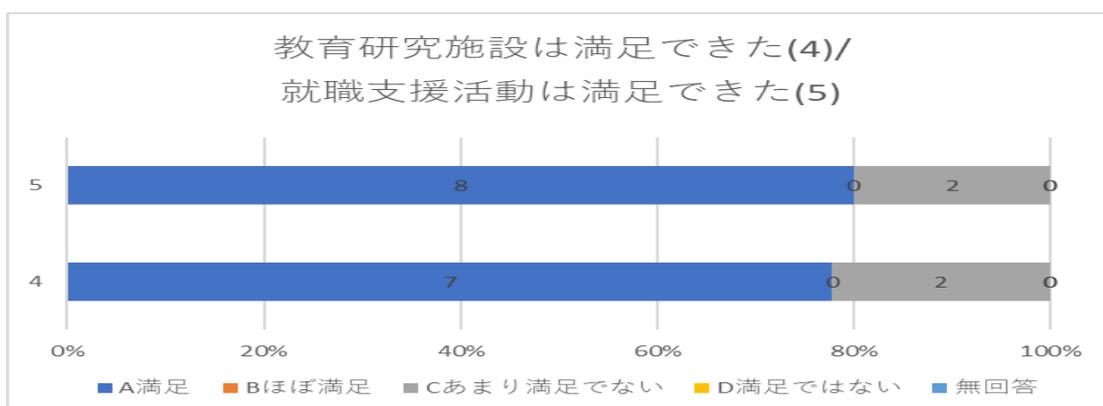
卒業予定者 12 名のうち 7 名からの回答であり、回収率 70.6% (昨年度 100%) とやや回収率が悪かった。また、不完全な回答もあり今後の課題である。

【全般的な質問】

設問 2「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」に対する回答としては、「研究室での卒研・ゼミ」、「先生との出会い」、「友人との出会い」、「課外活動」といった比較的密な人間関係の評価が高かった。設問 3 の「高知大学での勉学や生活で満足できなかったもの」の一番が「課外活動」であるのもその裏返しと考えられる。



設問 4「教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。」及び設問 5「高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。」に対する回答は、どちらも約 80% 近くが満足したと回答しており満足度は高かった。



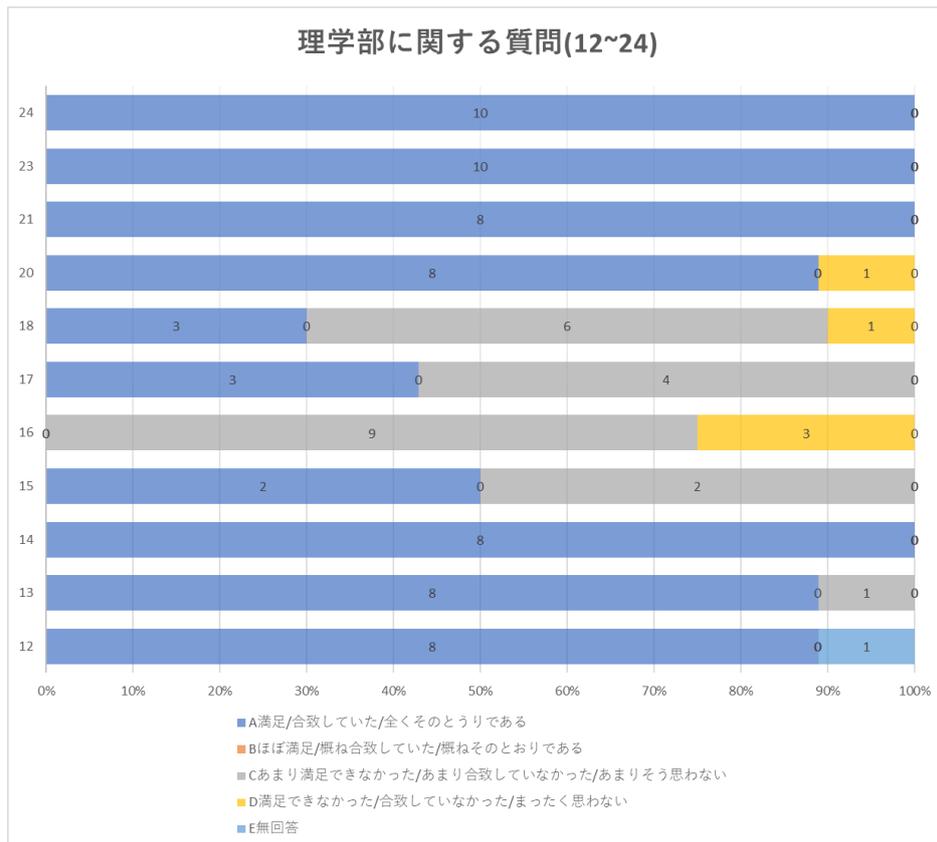
設問 6「ボランティア活動在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。」には、卒業予定者の半数が「はい」と回答しており意識の高い学生が多かったことが伺える。

【理学部に関する質問】

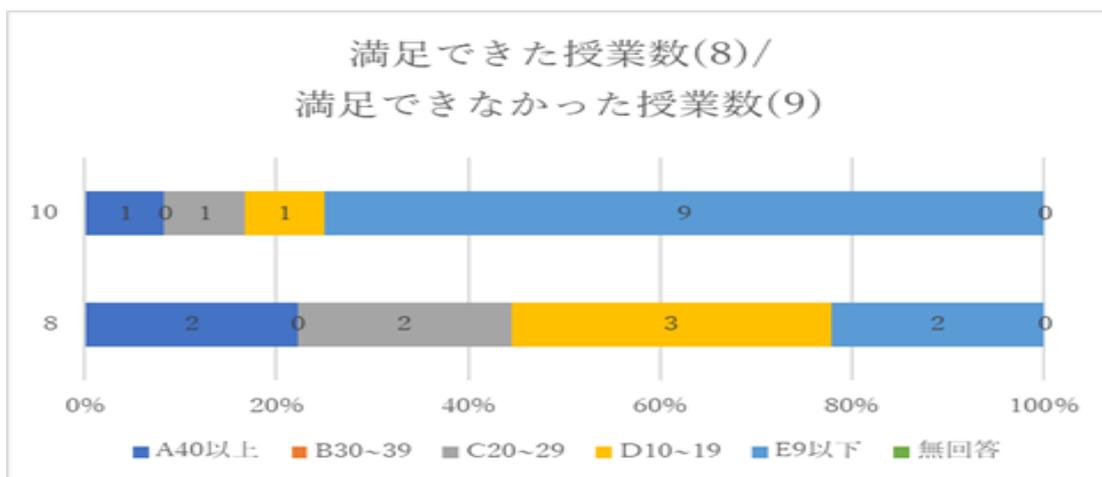
設問 24「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったですか。」に対して有効回答者全てが「とてもよかったと思う」と極めて肯定的な回答結果であった。個別回答では、[標準履修モデル 12~14]、[成績評価 20]、[授業改革 21]、[アドバイザー・教員制度 23] について、それぞれ約 90%以上が「配置されていた/合致していた/適切であった/適切である」と積極的に肯定的な評価をしていた。

[専門科目への要望 15~18] について見ると、設問 15「高度な授業を実施してほしい」の有効回答数は少ないが「全くその通り 50%、あまりそう思わない 50%」、設問 16「授業内容

のレベルを下げたい」に対しては「あまりそう思わない75%、全く思わない25%」、設問 17「実験・実習・野外調査を増やしてほしい」に対しては「全くその通りである 43%、あまりそう思わない57%」、設問 18「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」に対しては「全くその通りである 30%、あまりそう思わない 60%、全く思わない 10%」であった。設問 15・17 については意見が分かれるが、設問 16・18 の回答からは現状の授業レベル・内容に肯定的な評価をしていると思われ、総合的によかったという評価に結びついていると考えられる。



設問 16 及び 18 の回答結果より、授業レベル・内容については肯定的な評価であったが、満足度に関する設問 8「満足できた授業の数はおよそいくつでしたか。」及び設問 10「満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。」を見ると、「満足できた数」としての回答は割れているが、「満足できなかった数」として 80%弱が 9 以下と回答している。また設問 9「満足した理由」として「専門分野の実力が付いた 45%」であった。この結果が、設問 16 及び 18 の肯定的な結果に反映されているものと思われる。



【分析と今後の教育へのフィードバック】

回収率が 70.6%と全員ではなかったという課題は残るが、平成 30 年度卒業予定者からは理学部での学びについて概ね肯定的な評価が得られていると考えられる。平成 29 年度と比較すると、傾向としては同じであるがより高い満足度という結果になっている。授業レベル・内容についても大多数は高い評価であるが、「実力が付かなかった」、「不親切でわかり難い授業だった」との意見も一定数ある。理学部から理工学部への改組により、災害科学コースとしては令和元年度が最後となるが、理工学部地球環境防災学科にて現状の授業レベル・内容を維持しつつさらなる改善を図りたい。

II. 集計結果

所属

1. あなたの所属するコースを下記より選んでください。
- A. 数学コース B. 物理科学コース
 C. 化学コース D. 生物科学コース E. 地球科学コース
 F. 情報科学コース G. 応用化学コース
 H. 海洋生命・分子工学コース
 I. 災害科学コース

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	計
卒業生数	46	26	15	47	12	25	26	41	17	255
回収件数	46	4	15	9	12	25	28	31	12	182
回収率(%)	100	15.4	100	19.1	100	100	107.7	75.6	70.6	71.4

全般的な質問

2. 高知大学での勉学や生活で満足できたものを下記より選んでください。(複数回答可)
- A. 授業 B. 研究室での卒研やゼミ C. 先生との出会い
 D. 友人との出会い E. 課外活動 F. 親からの自立
 G. その他 ()

	A	B	C	D	E	F	G	無回答
数学コース	23	25	21	37	37	12	12	0
物理科学コース	0	3	3	4	4	0	0	0
化学コース	0	12	6	7	3	1	0	0
生物科学コース	3	6	2	7	3	2	1	0
地球科学コース	3	7	5	8	3	2	0	0
情報科学コース	10	22	18	16	7	9	0	0
応用化学コース	6	18	8	20	7	11	1	0
海洋生命・分子工学コース	10	19	16	20	8	8	0	0
災害科学コース	4	10	8	10	10	3	3	0
合計	59	122	87	129	82	48	17	0
合計(%)	10.8	22.4	16.0	23.7	15.1	8.8	3.1	0

○数学コース

- ・アルバイトの選択
- ・特になし (2人)

○生物科学コース

- ・部活

C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	12	28	5	1	0
物理科学コース	1	3	0	0	0
化学コース	2	5	7	1	0
生物科学コース	2	7	0	0	0
地球科学コース	3	8	1	0	0
情報科学コース	7	14	3	1	0
応用化学コース	3	22	3	0	0
海洋生命・分子工学コース	4	22	4	1	0
災害科学コース	7	0	2	0	0
合計	41	109	25	4	0
合計(%)	22.9	60.9	14.0	2.2	0

5. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	14	23	7	2	0
物理科学コース	3	1	0	0	0
化学コース	2	4	7	1	1
生物科学コース	1	4	3	1	0
地球科学コース	1	8	3	0	0
情報科学コース	8	10	4	0	3
応用化学コース	3	13	10	1	1
海洋生命・分子工学コース	3	17	8	3	0
災害科学コース	8	0	2	0	0
合計	43	80	44	8	5
合計(%)	23.9	44.4	24.4	4.4	2.8

6. 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。

- A. ある B. ない

	A	B	無回答
数学コース	16	30	0
物理科学コース	0	4	0

化学コース	3	12	0
生物科学コース	2	7	0
地球科学コース	3	9	0
情報科学コース	5	20	0
応用化学コース	8	20	0
海洋生命・分子工学コース	9	22	0
災害科学コース	6	0	0
合計	52	124	0
合計(%)	29.5	70.5	0

7. 6で「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	7	9	0	1	29
物理科学コース	0	0	0	0	4
化学コース	2	1	0	0	12
生物科学コース	1	1	0	0	7
地球科学コース	0	3	0	0	9
情報科学コース	3	2	0	0	20
応用化学コース	3	3	2	0	20
海洋生命・分子工学コース	4	3	1	1	22
災害科学コース	3	0	0	0	6
合計	23	22	3	2	129
合計(%)	12.8	12.3	1.7	1.1	72.1

理学部に関する質問

【受講科目の感想】

8. あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）の印象をお聞きします。満足できた授業の数はおよそいくつでしたか。

- A. 40以上 B. 30～39 C. 20～29 D. 10～19 E. 9以下

	A	B	C	D	E	無回答
数学コース	9	10	17	8	2	0
物理科学コース	0	1	1	2	0	0
化学コース	1	4	1	6	3	0
生物科学コース	0	1	5	2	1	0

地球科学コース	0	3	4	3	2	0
情報科学コース	3	6	12	2	2	0
応用化学コース	1	7	8	9	3	0
海洋生命・分子工学コース	5	3	11	8	4	0
災害科学コース	2	0	2	3	2	0
合計	21	35	61	43	19	0
合計(%)	11.7%	19.6	34.1	24.0	10.6	0

9. 満足した理由を下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 専門分野の実力がついた B. 親切で丁寧な授業であった C. 教材を工夫していた
D. 教員の熱意が感じられた E. 授業が一方向的でなかった F. 授業内容が斬新だった
G. その他 ()

	A	B	C	D	E	F	G	無回答
数学コース	27	30	6	14	1	5	0	0
物理科学コース	1	2	2	1	0	0	0	0
化学コース	6	11	1	2	5	2	0	0
生物科学コース	3	7	2	5	3	0	0	0
地球科学コース	9	7	1	3	1	1	1	0
情報科学コース	19	16	3	9	2	8	1	0
応用化学コース	16	14	3	6	6	6	0	0
海洋生命・分子工学コース	15	17	5	8	2	3	1	0
災害科学コース	9	3	2	3	1	2	0	0
合計	105	107	25	51	21	27	3	0
合計(%)	31.0	31.6	7.4	15.0	6.2	8.0	0.9	0

○地球科学コース

- ・納得できる, おもしろい, 興味のわくもの。

○情報科学コース

- ・先生によった。

10. 理学部開設授業(講義, 実験, 演習, セミナー)のうち, 満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。

- A. 40以上 B. 30~39 C. 20~29 D. 10~19 E. 9以下

	A	B	C	D	E	無回答
数学コース	0	5	7	9	25	0
物理科学コース	1	0	0	1	2	0
化学コース	1	4	2	6	2	0

生物科学コース	0	0	3	2	4	0
地球科学コース	0	3	1	3	5	0
情報科学コース	1	1	4	4	14	1
応用化学コース	0	3	7	9	9	0
海洋生命・分子工学コース	0	2	2	16	10	1
災害科学コース	1	0	1	1	9	0
合計	4	18	27	51	80	2
合計(%)	2.2	9.9	14.8	28.0	44.0	1.1

11. 満足しなかった理由を下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 実力がつかなかった
 B. 不親切でわかり難い授業だった
 C. 教材の工夫が見られなかった
 D. 教員の熱意が感じられなかった
 E. 一方的な押し付け授業だった
 F. 内容が古すぎた
 G. 内容が体系的でなく断片的だった
 H. その他 ()

	A	B	C	D	E	F	G	H	無回答
数学コース	17	25	4	2	11	0	5	2	0
物理科学コース	3	1	0	0	1	0	0	0	0
化学コース	3	8	8	5	10	2	5	1	0
生物科学コース	3	2	1	2	5	1	3	1	0
地球科学コース	2	4	0	2	4	0	1	2	1
情報科学コース	6	8	4	1	4	3	3	3	1
応用化学コース	9	18	3	5	12	2	4	1	0
海洋生命・分子工学コース	8	19	4	7	6	0	2	1	3
災害科学コース	4	4	1	1	2	0	1	1	0
合計	55	89	25	25	55	8	24	12	5
合計(%)	18.5	29.9	8.4	8.4	18.5	2.7	8.1	4.0	1.7

○数学コース

- ・求めていたもの、想像してたのと違った。
- ・特になし (1人)

○化学コース

- ・生徒に冷たい。質問に行ってもおいかえされた。(○○前半)

○生物科学コース

- ・専門外で興味が分らない。

○地球科学コース

- ・授業と関係ない話が多かった。

・興味がなく、卒業のために、しかたなくとったから。

○情報科学コース

・自分の熱意が足りていなかった。

・特になし（2人）

○応用化学コース

・依怙最負が多く、独りよがりな先生が多かった。

○海洋生命・分子工学コース

・分からない。

【標準履修モデル】

12. 基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていきましたか。

A. 配置されていた

B. 概ね配置されていた

C. あまり配置されていなかった

D. 配置されていなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	17	28	1	0	0
物理科学コース	0	4	0	0	0
化学コース	2	6	7	0	0
生物科学コース	2	7	0	0	0
地球科学コース	2	9	1	0	0
情報科学コース	8	14	1	0	2
応用化学コース	8	18	2	0	0
海洋生命・分子工学コース	6	22	2	1	0
災害科学コース	8	0	0	0	1
合計	53	108	14	1	3
合計(%)	29.6	60.3	7.8	0.6	1.7

13. 専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていきましたか。

A. 配置されていた

B. 概ね配置されていた

C. あまり配置されていなかった

D. 配置されていなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	13	31	2	0	0
物理科学コース	1	3	0	0	0
化学コース	3	9	2	1	0
生物科学コース	2	6	1	0	0
地球科学コース	2	9	1	0	0
情報科学コース	9	16	0	0	0
応用化学コース	7	16	5	0	0

海洋生命・分子工学コース	4	22	4	1	0
災害科学コース	8	0	1	0	0
合計	49	112	16	2	0
合計(%)	27.4	62.6	8.9	1.1	0

14. 各教育コースは独自の教育目標を掲げています（履修案内等を参照してください）。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。

- A. 合致していた B. 概ね合致していた
C. あまり合致していなかった D. 合致していなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	12	33	1	0	0
物理科学コース	1	3	0	0	0
化学コース	1	9	4	0	1
生物科学コース	2	5	2	0	0
地球科学コース	1	10	1	0	0
情報科学コース	5	20	0	0	0
応用化学コース	4	17	7	0	0
海洋生命・分子工学コース	4	22	3	1	1
災害科学コース	8	0	0	0	0
合計	38	119	18	1	2
合計(%)	21.3	66.9	10.1	0.6	1.1

【専門科目への要望】

15. 「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	8	23	13	2	0
物理科学コース	1	0	3	0	0
化学コース	2	8	5	0	0
生物科学コース	0	3	6	0	0
地球科学コース	2	7	3	0	0
情報科学コース	6	11	8	0	0
応用化学コース	1	17	9	1	0
海洋生命・分子工学コース	3	21	6	1	0

災害科学コース	2	0	2	0	0
合計	25	90	55	4	0
合計(%)	14.4	51.7	31.6	2.3	0

16. 「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	5	13	24	4	0
物理科学コース	1	3	0	0	0
化学コース	1	5	9	0	0
生物科学コース	3	2	3	1	0
地球科学コース	1	2	5	4	0
情報科学コース	1	6	15	3	0
応用化学コース	2	8	16	2	0
海洋生命・分子工学コース	0	16	10	5	0
災害科学コース	0	0	9	3	0
合計	14	55	91	22	0
合計(%)	7.7	30.2	50.0	12.1	0

17. 「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	3	11	20	12	0
物理科学コース	1	2	1	0	0
化学コース	3	7	2	3	0
生物科学コース	5	3	1	0	0
地球科学コース	5	2	5	0	0
情報科学コース	4	6	10	5	0
応用化学コース	8	10	9	1	0
海洋生命・分子工学コース	4	10	11	6	0
災害科学コース	3	0	4	0	0
合計	36	51	63	27	0

合計(%)	20.3	28.8	35.6	15.3	0
-------	------	------	------	------	---

18. 「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	10	10	21	5	0
物理科学コース	1	2	1	0	0
化学コース	2	2	7	4	0
生物科学コース	3	3	3	0	0
地球科学コース	1	4	6	1	0
情報科学コース	6	9	10	0	0
応用化学コース	9	6	12	1	0
海洋生命・分子工学コース	7	10	10	4	0
災害科学コース	3	0	6	1	0
合計	42	46	76	16	0
合計(%)	23.3	25.6	42.2	8.9	0

19. 18でAあるいはBを選択した人にお聞きします。社会に出て役立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください。

○数学コース

- ・実際社会人になったとき、どのような事を重要視するのかなど
- ・コミュニケーション能力
- ・自力で考える力や、その考えを人に伝える力。授業によっては自由に考える時間や、意見を交換する時間等があればいいと思った。
- ・対人関係でのトラブルの対処法などや、パソコンの使い方など
- ・縦の関係などが少ないせいなのか就活の情報が少なく、最終的なゴールの1つである就職について出遅れる人が多いと思っています。地域密着が強く他県のことがあまり知らない。
- ・情報モラル
- ・保健についての授業、社会のじょうしきについての授業
- ・経験は社会に出てどんなに小さなことでもいつか役に立つことがあると思うため、どんなことでも必要と考える。
- ・パソコンの知識
- ・専門的な内容の中でも一般生活や仕事、普段の会話の中で役に立つこと
- ・どのようなことを社会に出て使うかわからないためそれを先生が教えてもらいたい

・ office ソフトの使い方とか？

○物理科学コース

・ エクセル，ワード，パワーポイントのスキルアップや社会人からの体験談が聴けることなど

・ 社会人としてのマナー講座など

○化学コース

・ もっと外から人を呼んでほしい。

・ 未来を考える

・ 企業訪問のような，見学の場を，大学提携の企業と行う。

○生物科学コース

・ 専門的な知識

・ コミュニケーション能力

・ 他者との関わり，意見交換のスキル

・ マナーや常識

・ 仕事につながる内容

・ グループワークなど

○地球科学コース

・ 社会人としての心構えや社会に出るための準備について教わりたい。

・ 理学と社会貢献の関係

・ 社会人基礎力

○情報科学コース

・ 社会にでた際のマナー

・ 授業での内容がどのように活かしているか

・ コミュニケーション能力

・ IoT

・ 閑話的な感じ講義の合間で，軽く話を挟んでくれたりする先生好きでした。「勉学」的な話を少し身近にしてくれるだとか。（具体例で想像できたり）

・ 実際に働いた時に必要な技術，知識

・ レポート作成能力（文章力，構成力）

・ マナーについてなど

・ 実践的なシステム等の運用方法など。

・ 大学で学ぶ内容と働いて生きていく為に必要なスキルを上手く組み合わせて欲しい。

・ ホームページ作成，公開・サーバ作成・機械学習

・ 実際に社会にでて働いている人の話を聞きたい。仕事しているときの考え方や実際の給料の話などなど

・ 実社会で使われているプログラムや言語，そのリストの解説などがあると良い。

・ 働くことを想定としての授業

○応用化学コース

- ・現代若者に足りないもの。(政治や世界の現状をわかりやすく。)
- ・コミュニケーション能力の向上など
- ・PCの使い方, 資料の作り方, 話合の進め方など
- ・マナー, 礼儀
- ・行動力, 問題解決能力
- ・今後どの仕事に就いても必要とされる Excel の勉強。
- ・多分野で利活用出来る知識・経験
- ・インターンシップを経験させる講義など
- ・日常生活に関連しているものがあれば, その内容を結びつける。
- ・対人スキル
- ・理系の職で使える知識や技術 理系の職で使われている・求められている技術や機器について

- ・対人関係
- ・もっとプレゼン発表の機会があればいいなと思った

○海洋生命・分子工学コース

- ・コミュニケーション能力や, プレゼン能力
- ・日常生活で役立つような知識をすること。
- ・一般企業に勤めている方を週替りでお招きし, 講義していただく。
- ・経済とか。
- ・役所の手続きで必要な知識
- ・ファシリテーション力がつくような
- ・コミュニケーション能力
- ・実用的なこと。
- ・コミュカ

○災害科学コース

(なし)

【成績評価】

20. これまで受講した授業について, 成績評価の方法は適切であったと思いますか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 適切でない授業もあった D. 適切でない授業がたくさんあった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	11	26	9	0	0
物理科学コース	1	1	2	0	0
化学コース	2	7	4	2	0
生物科学コース	2	6	1	0	0
地球科学コース	4	4	4	0	0
情報科学コース	9	16	0	0	0

応用化学コース	9	14	4	1	0
海洋生命・分子工学コース	4	22	5	0	0
災害科学コース	8	0	0	1	0
合計	50	96	29	4	0
合計(%)	27.9	53.6	16.2	2.2	0

【授業改革】

21. 理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思えますか。

- A. 適切である B. 概ね適切である
C. 足りない D. 多すぎる

	A	B	C	D	無回答
数学コース	15	28	2	1	0
物理科学コース	1	3	0	0	0
化学コース	0	12	0	2	1
生物科学コース	2	6	1	0	0
地球科学コース	4	7	1	0	0
情報科学コース	5	15	5	0	0
応用化学コース	6	21	1	0	0
海洋生命・分子工学コース	5	24	2	0	0
災害科学コース	8	0	0	0	0
合計	46	116	12	3	1
合計(%)	25.8	65.2	6.7	1.7	0.6

22. 21 で C あるいは D を選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思えますか。具体的に書いてください。

○数学コース

- ・専門科目の演習をもう少し増やすか毎年開講してほしかった。
- ・他コースの概論が多いと感じた。
- ・基礎系の演習をもっと増やしてほしい○物理科学コース

○物理科学コース

(なし)

○化学コース

- ・[教員名2名を挙げている]
- ・基礎を固められる授業を増やす
- ・教育的にふさわしくない授業が多い。学生が理解しようとして理解できないなら、教師がわるい。自覚すべき。教育学部の先生に指導の仕方を習うべき。学生を見下す教師は不適切。

- 生物科学コース
 - ・集中講義
- 地球科学コース
 - ・野外実習やフィールドワーク
- 情報科学コース
 - ・前期でとることのできる授業を増やした方がいい
 - ・副専攻科目を増やしてほしい
 - ・情報工学などハードウェア設計やIoTやAIなど最新技術に関わることなど
 - ・専門的な講義
 - ・回路実験などの実験を増やして欲しい。
- 応用化学コース
 - ・物理や生物分野
- 海洋生命・分子工学コース
 - ・まず履修の仕方が分かりにくいです
 - ・もっと研究に結びつくもの。
- 災害科学コース
 - (なし)

【アドバイザー教員制度】

23. アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. あまり適切でなかった D. 適切でなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	36	9	1	0	0
物理科学コース	3	1	0	0	0
化学コース	6	7	2	0	0
生物科学コース	5	2	2	0	0
地球科学コース	6	6	0	0	0
情報科学コース	21	4	0	0	0
応用化学コース	10	16	2	0	0
海洋生命・分子工学コース	16	13	2	0	0
災害科学コース	10	0	0	0	0
合計	113	58	9	0	0
合計(%)	62.8	32.2	5.0	0	0

24. 総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったですか。

- A. とてもよかったですと思う B. おおむねよかったですと思う
C. あまりよかったですと思わない D. よかったですと思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	22	22	2	0	0
物理科学コース	3	1	0	0	0
化学コース	2	10	3	0	0
生物科学コース	2	6	1	0	0
地球科学コース	6	5	1	0	0
情報科学コース	13	11	1	0	0
応用化学コース	9	18	1	0	0
海洋生命・分子工学コース	12	18	1	0	0
災害科学コース	10	0	0	0	0
合計	79	91	10	0	0
合計(%)	43.9	50.6	5.6	0	0

25. 理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください。

○数学コース

・大学1年までの授業は演習というか、双方向型の授業が多いように感じたが、2年生以降はどちらかというと一方的な授業がほとんどのように感じた。専門に進んでも、そういった授業を多くすると良いのではないかと思います。

・特になし

・勉強ができる環境を整えて欲しい。(2年程前、共通教育棟で勉強していたら、電気をつけていただけで学務課の方に注意された。)

・特になし。満足のいくものでした。

・ないので書かない。

・特にありません。

・学生に自習を勧めましょう

・特にないです。今までありがとうございました。

○物理科学コース

・何をどのように評価するかをもう少し、詳しく提示があれば良い。

・食堂を増やしてはどうだろうか。

○化学コース

・1～2回生の間は学校生活が楽しくなく(授業についていけず)大学は嫌いでしたが、3回生中盤あたりから新しい先生と関わりだしたことで少し楽しくなりました。ありがとうございました。

・SciFinderとChemDrawを買ってください。

・特になし

○生物科学コース

(なし)

○地球科学コース

- ・先生によって授業に対する熱意が違いすぎる。
- ・17, 18に関して, 大学側に求めるより, 自分で野外に出たり, 企業見学などを行った方が勉強になると思う。そして早い。

○情報科学コース

- ・3回生の4月からゼミ配属でもいいともう
- ・教員免許取得希望者への授業科目数のめんどじょや卒業単位への反映などがあればより免許取得希望者の負担が減るのではないかと思います。
- ・専門知識を身につけることができました。ありがとうございました。
- ・理学部専門で気軽に話しかけられるメンタルケアの先生が欲しいです。
- ・他コース, 他学部とかかわる機会がもう少し多ければ楽しいと思う。(現在でも, 初年次の授業や, 一部の教養の授業ではそういう機会があったがもうちょっと欲しい)
- ・卒業に必要な単位数の確認を一目で分かるようにしてほしい
- ・情報棟のエアコンの効きが悪い
- ・情報科学棟のエアコンが壊れたままの場所があったので, どうにかしてほしい
- ・とくになし

○応用化学コース

- ・アクティブラーニング型授業の押し付けはやめて欲しい文系科目なら分からないでもないが, 理科の授業などはほとんどしてるひまがない(教科書内容が終わらないので)
- ・ChemDrawがないのは, 不便でした。
- ・応用化学コースは情報が本当に入ってこない。必要な情報は一部の人間しか知らない状態が多い。
- ・同分野の基礎科目において, 授業内容で別の授業でやっているはず, やるはずという形でとばされたところが結局どの授業でもやられないことがあった

○海洋生命・分子工学コース

- ・学生が自身の大学に誇りを持つ教育に期待したい。
- ・なし(2人)

○災害科学コース

(なし)